

## 審議会の議事の要旨(要点)

|         |  |
|---------|--|
| 会議名称    | 第5回 昭島市男女共同参画プラン審議会  |
| 開催日時    | 令和3年2月16日(火)   |
| 開催場所    | 昭島市役所本庁舎602会議室   |
| 次第      | <p>1 開会の挨拶</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 昭島市男女共同参画プラン(素案)に関するパブリックコメントの意見について</p> <p>(2) 昭島市男女共同参画プラン答申素案について</p> <p>3 その他</p>  |
| 配布資料    | <p>① 資料1 「昭島市男女共同参画プラン(素案)」に係るパブリックコメントの結果について</p> <p>② 資料2 昭島市男女共同参画プラン答申(素案)</p>   |
| 出席者     | <p>◆審議会委員<br/>会長 金野美奈子、副会長 柴田邦臣、鳥生尚美、並木浩子、浦崎暁子、佐藤之崇、長瀬尚子、長谷川京子、大井晶子、新田紘一、長谷部高史</p> <p>◆昭島市<br/>板野子ども家庭部長、萩原政策担当部長、渡辺女性活躍支援担当課長、青柳企画政策課長、吉野男女共同参画センター担当</p>   |
| 公開及び非公開 | 公開   |
| 傍聴者数    | 0人   |
| 会議結果    | <p>1 開会の挨拶 会長</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 昭島市男女共同参画プラン(素案)に関するパブリックコメントの意見について</p> <p>(2) 昭島市男女共同参画プラン答申素案について</p> <p>事務局より資料に基づいて説明。<br/>委員からの質問・意見は下記のとおり。</p> <p>・パブリックコメントが8名の方から24件寄せられたということについて、通常のパブリックコメントと比べて反応があったほうなのかどうか。<br/>→配布部数の増刷をもったので、市民に一定の周知は図れ</p> |

たものと考えている。

・ご意見を寄せてくれた8名はどういった方々なのか。

→昭島市在住で女性の方が多かった。

・ご意見を寄せてくれた8名の年代はどうなのか。

→年代等の公表はしていないが、里帰り出産等での支援への要望もあったので、一般的に広く年代を超えてご意見をいただけたと考えている。

・この意見の中でプランの実際の内容や文面を修正してほしいというコメントはあったのか。

→50 ページの文章中「さまざまなメディアに含まれるジェンダー感覚を正しく読み解き判断する力を身につけ、ネットやSNS等からのトラブルを回避できるように、メディア・リテラシーの向上を目指します。」の対象者が誰なのかがわかりにくい。また、「トラブルを回避」という表現ではなく、一步踏み込んで「被害者、加害者にならないため」の表現を加えた方が意識が高まると思う。」という意見を受け、「市民がさまざまなメディアに含まれるジェンダー感覚を正しく読み解き判断する力を身につけ、ネットやSNS上での人権侵害の加害者にも被害者にもならないために、メディア・リテラシーの向上を目指します。」という文章に修正した。修正は1点のみである。

・このプランは13ページに記載があるとおり、こちらのプランそのものの一部分が昭島市女性活躍推進計画を内包しているのと同時に昭島市配偶者暴力対策基本計画も包括していく構造になってると思う。ただ、この構造について、委員は全員分かると思うが、市民のかたがたはよく分からないことがあると思う。表紙にも書いてはあるが、プランそのものが計画を内包しているという関係性もちょっと分かりにくいのかなと思うので、どこかのページで説明したり、これはこういう形でこういう意味があるみたいなことがもう一言、説明があるとわかりやすいと感じた。

・思い付くままにいろいろと意見を言い、それを細かく丁寧に拾って反映をさせていただきとても感謝している。その過程に関わることができて、すごく光栄に思っており、出来上がったプランについても、まだ現時点でも社会の中で性につわることで問題がいろいろある中で、希望を持って、これ

からこの計画を進めていくことができると思える出来になったのではないかというふうに思っている。

・男女共同参画という視点で、今までの歴史も含めて振り返る機会をいただき大変勉強になったと感じている。女子差別撤廃条約から随分、時代も変わってきたなということも思う。学校で子どもたちに接するにあたり、その経緯を知った上で子どもに指導ができるのとそうでないのとでは話し掛け方も違うと思うし、そういう意味で非常にいい勉強の機会をいただいたと考えている。今までは、学校一つ取っても男女の平等ということで、道徳の主題に入っていることとかそういういったことで子どもの指導に当たってきたが、今は、その男女だけではなくて性の多様性も含めて学校も日常的にこの問題に対応する場面が出てきており、市のプランを学校も昭島市の要素の一つとして知っておくことが必要だと思うし、とてもバランスよくまとめていただけて、ありがたいと感じている。

・手に取ったときは、すごく資料が厚くて大変だと思って読み始めたが、すごく読みやすく、ずっと入ってきて良かったと思った。これから 10 年かけてどの程度変わっていくのかというのを興味深く見ていきたいと思う。また、教育が大事ということを全体を通して感じ、プランの周知が進めば社会が変わり、女性も活躍できるのではないかと期待している。

・自分の身に降りかかるこ以外にも、周りのかたがたが不安に思ったり、困っているときの窓口、支援の担当課が細やかに書かれており、市民が安心、安全に暮らせるような、そういういた市になっていってを感じがした。自分なりに周りのかたがたへ、このプランを通してそういうことも伝えることもできると感じている。各関係機関の連携体制について、とても距離を感じていたが、それが、プラン策定に関わり、素案が細かに出来上がるのを見て、安心できた。市民のかたがたが生活できるまちづくりというか、素案作りができたというのをうれしく思っている。

・一市民が見ても分かりやすく、なおかつ今回パブリックコメントで、いろいろな意見を市民の方がしっかり出してきてくれて、これをきちんと読んでくれていることがよく分かつて、男女共同参画という言葉自体の周知が進んでいないとこ

ろがあったが、きちんと読んでいる方は読んでいるし、意識が高いというところに感動している。この素案で、男女共同参画の中で、なじみの薄いワードはきちんと最後に用語集も載って分かりやすく表記されており、一般市民の方が読んでも分かりやすい資料ができたと感じている。男女共同参画の法律ができて、20年ぐらい経過し、試行錯誤しながら策定してきたんだろうなっていうのがすごくよく分かるものとなっている。今後に期待したい。

- ・このプランがどの程度進んでいくのか不安を感じる部分もあるが、もう少し寛容な気持ちで過ごして行ければと考えている。
- ・日本の中高年以上の女性は男性より前に出たくないという気持ちが強く、そのあたりをどのように変えていくか。世界的に見て、アメリカでも女性議員の数は少ないし、時間はかかると思うが、このプランができ、目標ができて、みんなが身の回りの状況を考えるきっかけになればいいと思う。
- ・今回プランを作成するにあたり、コロナ禍という状況で、社会的に弱い立場の方々が生活しにくい世の中になっているというふうに感じている。その方々に対してどのようにケアをしていくのかというのはあると思うので、それを今後も考え続けていかなくてはならないと思う。自死を選ぶ子どもも増えているという痛ましい報道もあり、どのようにケアしていくべきなのか。これまで社会的に弱い立場という子どもであったり女性であったりしたが、必ずしもそれだけではなくこれから世の中は本当に多様になっていくと思う。女性で活躍する人がどんどん増えて、男性でも社会的に対応できずにいる方も増えてくると考えられるので、そういう方々を含めてケアできるような、今回の素案はゴールではなくスタートであると思うので、今後10年をかけてプランを実行し目標に近づけるようにしていくというのが市の役割として大事になってくると思う。個人的な意見として、男女平等、男性だから、女性だからとか、そういう言葉が早くなくなるような社会になってもらいたいなと願っている。このプランがその一歩になればと考えている。

3 その他

- ・市長への答申について、事務局より説明
- ・子ども家庭部長挨拶